

福祉ボランティア活動実践校事業及び  
地域ぐるみボランティア活動推進事業

平成 29 年度

# 活動集



ふれあいネットワーク

 社会福祉人 甲府市社会福祉協議会

甲府市ボランティアセンター

# はじめに

現在、人口減少や高齢化が諸外国に例を見ないスピードで進む中、地域においては生活困窮者・DV被害・障がい者・子育て支援などの課題が混在し、社会保障制度やサービスの縦割りでは対応できないため、一つ一つの課題をフォローし、諸々の仕組みや制度を繋げ、解決するルールづくりや合意形成のための組織づくりが求められています。

平成26年度、甲府市と甲府市社会福祉協議会が共同で策定した「甲府市地域福祉推進計画」では、「なんでも行政」ではなく、それぞれの地域ごとに、自治会等を中心として、自助・互助・共助・公助の誰が何をすべきかを計画として策定しました。

また、国においても平成28年度に「我が事・丸ごと」として、地域共生社会を目指す取組が開始されました。

こうした地域づくりの大切さが指摘される中、平成29年度も引き続き、甲府市社会福祉協議会では、限られた資源を地域の人々が上手に共有し、地域を暮らしやすく変えていく取組として「地域ぐるみボランティア活動推進事業」に取り組みました。

また、地域社会の持続可能性を確保するために、市立の小・中・高等学校を対象に地域の様々な主体が協力し、次世代を担う子供たちが豊かな人間性や社会性を育み、社会的自立と自己実現を図ることを目的として、「福祉ボランティア活動実践校事業」にも取り組んだところです。

この度、平成29年度の「地域ぐるみボランティア活動推進事業」及び「福祉ボランティア活動実践校事業」の取組を活動集として作成いたしましたので、ご活用いただければ幸いです。

結びに、この事業推進のために、ご尽力をいただきました関係各位に心からお礼を申し上げますとともに、当協議会に対しまして、さらなるご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年5月

社会福祉法人甲府市社会福祉協議会  
会 長 山 田 文 夫



# 目 次

福祉ボランティア活動実践校事業実施要領	1
福祉ボランティア活動実践校一覧	3

## 【平成 29 年度福祉ボランティア活動実践校】

①甲府市立貢川小学校	4
②甲府市立中道南小学校	5
③甲府市立中道北小学校	6
④甲府市立北新小学校	7
⑤甲府市立羽黒小学校	8
⑥甲府市立舞鶴小学校	9
⑦甲府市立朝日小学校	10
⑧甲府市立西中学校	11
⑨甲府市立富竹中学校	12
⑩甲府市立南西中学校	13
⑪甲府市立笛南中学校	14
⑫甲府市立上条中学校	15
⑬甲府市立北中学校	16
地域ぐるみボランティア活動推進事業実施要領	17

## 【地域ぐるみボランティア活動推進事業】

大里地区社会福祉協議会	18
甲府市ボランティアセンターの紹介	26
甲府市ボランティアセンター事業の紹介	28
福祉講話講師の紹介	29
高齢者疑似体験セットの紹介	30

# 甲府市社会福祉協議会 福祉ボランティア活動実践校事業 実施要領

## 第1 目的

この要領は、児童・生徒の社会福祉への関心と理解を高め、ボランティア精神を養うため、家庭や地域に開かれた福祉教育と地域に根差したボランティア活動の実践を行う福祉ボランティア活動実践校事業の実施について、必要な事項を定める。

## 第2 実施主体

実施主体は、社会福祉法人甲府市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）とし、次のとおり活動を行う。

## 第3 事業

- (1) 「福祉ボランティア活動実践校」（以下「実践校」という。）相互の連絡調整や情報交換を図るための「連絡会議」の開催
- (2) 事業推進に必要な資料、情報の提供
- (3) 事業の取り組み内容の公開（ホームページ等）
- (4) その他事業の効果的な推進を図るために必要なこと

## 第4 実施の期間

事業の期間は、平成27年度から平成29年度までとする。

## 第5 実践校の指定

実践校の指定は、甲府市立の小・中学校並びに高等学校とし、事業期間中一度に限り指定を受けるものとする。

## 第6 助成金

- 1 実践校への助成金は、市社協の予算の範囲内で、1校につき4万円を限度とする。
- 2 指定校への助成は、別に定める事業計画による。

## 第7 助成金の申請

助成金を受けようとする実践校は、次の書類を市社協会長に提出する。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業助成金申請書（第1号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業事業計画・予算書（第2号様式）

## 第8 実践校の活動

実践校は、目的達成のためにそれぞれの地域及び実践校の実情に合わせて、別紙「活動の例示」を参考にした活動を行う。

## 第9 実績の報告

実践校は、事業年度終了後20日以内に、次の書類を市社協会長に報告しなければならない。

- (1) 福祉ボランティア活動実践校事業実績報告書（第3号様式）
- (2) 福祉ボランティア活動実践校事業取り組み内容（第4号様式）
- (3) 福祉ボランティア活動実践校事業収支決算書（第5号様式）
- (4) 福祉ボランティア活動実践校事業に関わる領収書

## 附 則

この要領は、平成24年4月1日から施行する。

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

この要領は、平成27年4月1日から施行する。

## 別紙「活動の例示」

### ○広報・啓発活動

- ・講演会、上映会、展示会等の開催
- ・学校新聞等の作成、配付及びホームページへの掲載

### ○調査・研究活動

- ・ねたきり高齢者調査、まちづくり点検活動、自然環境調査、災害時等に関する地域環境調査

### ○体験学習等を目的とした実践活動

- ・小地域ネットワーク活動への協力
- ・福祉施設等への慰問・交流活動
- ・地区社会福祉協議会やボランティア団体等地域内の社会福祉関係機関・団体との交流活動
- ・体育祭、文化祭等学校行事への高齢者、障がい（児）者の招待
- ・地域と連携した奉仕活動
- ・国際及び環境問題への取り組み
- ・福祉講話の実施
- ・高齢者疑似体験セット、車椅子、白い杖等福祉体験用具の活用
- ・花、野菜の栽培及び食育の学び
- ・古切手及び牛乳パック、ペットボトルキャップ等の収集

### ○甲府市社会福祉協議会（甲府市ボランティアセンター）事業等への参加

- ・ふれあいチャレンジフェスタ、ボランティア交流会・ボランティア博、ボランティア養成講座、赤い羽根共同募金への協力等

### ○実践校等相互の交流

### ○その他、社会福祉に関する活動



## 福祉ボランティア活動実践校事業 指定校 【平成27年度～29年度実施】

No.	学 校 名	指 定 年 度		
		平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
1	善 誘 館 小 学 校	○		
2	山 城 小 学 校	○		
3	大 国 小 学 校	○		
4	千 代 田 小 学 校	○		
5	新 紺 屋 小 学 校	○		
6	北 東 中 学 校	○		
7	北 西 中 学 校	○		
8	城 南 中 学 校	○		
9	甲 府 商 業 高 校	○		
10	大 里 小 学 校	○		
11	甲 運 小 学 校	○		
12	新 田 小 学 校	○		
1	池 田 小 学 校		○	
2	石 田 小 学 校		○	
3	湯 田 小 学 校		○	
4	伊 勢 小 学 校		○	
5	国 母 小 学 校		○	
6	東 小 学 校		○	
7	相 川 小 学 校		○	
8	千 塚 小 学 校		○	
9	東 中 学 校		○	
10	南 中 学 校		○	
11	里 垣 小 学 校		○	
12	玉 諸 小 学 校		○	
1	貢 川 小 学 校			○
2	中 道 南 小 学 校			○
3	中 道 北 小 学 校			○
4	北 新 小 学 校			○
5	羽 黒 小 学 校			○
6	舞 鶴 小 学 校			○
7	朝 日 小 学 校			○
8	西 中 学 校			○
9	富 竹 中 学 校			○
10	南 西 中 学 校			○
11	笛 南 中 学 校			○
12	上 条 中 学 校			○
13	北 中 学 校			○
	合 計	12	12	13

1

# 甲府市立貢川小学校

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	朝のあいさつ運動 (児童会・生活委員会)	H29.8.20	親子クリーンアクション
	書き損じハガキ、古切手、テレホンカード、ペットボトルキャップ収集(児童会)	10.11	点字学習会 講師 深田 春美さん 根津 春奈さん
	花いっぱい活動(環境委員会)	10.24	福祉講話 講師 白濱 顕子さん と盲導犬
	お米をアフリカに送る活動	11.28	アイマスク・車椅子体験
		12月上旬	募金活動(赤い羽根共同募金)

## 2 取り組み事例

本校では、総合的な学習の時間・生活科・道徳などの時間に福祉教育に取り組んでいます。通年を通し、児童会が中心となって上記に挙げたような活動をしており、児童らは積極的に取り組むことができました。今年度は、4年生を中心に福祉教育を実現することができました。以下にその様子を紹介します。

### (1) 点字学習会

講師 深田 春美さんと根津 春奈さん

対象学年 4年生

国語科の「手と心で読む」の学習と総合的な学習の福祉教育と関連した学習に取り組みました。「点字学習会」ということで、点字の成り立ち、点字のしくみ、打つ点字と読む点字の違いについて教えていただきました。また、実際に点字スケールを使って点字を打つ体験をすることができました。児童は自分の名前を始め、家族や友達の名前を打ち、貴重な体験をすることができました。



### (2) 福祉講話

講師 視覚障がい者 白濱 顕子さんと盲導犬

対象学年 4年生

講師は、県のボランティアセンターから紹介していただいた 白濱顕子さんです。御主人と盲導犬も一緒に来ていただきました。白濱さんは講師として、今までに何回も講演をしていらっしゃるの、慣れており、その内容も児童に分かりやすくとても勉強になりました。御主人からは、「盲導犬クイズ」を出していただき、子供たちが興味をもって聞くことができるように工夫をしてくださいました。白濱さんは、途中から視力が落ちていったのですが、目が見えなくなってからの人生は2回目の人生だと思って、楽しんでいるとおっしゃっていました。さらに、目が見えなくなってからの方が人の優しさが分かるようになったとおっしゃっていました。そのポジティブな考え方に、児童全員が感銘を受けました。



### (3) アイマスク・車椅子体験

対象 4年生

総合的な学習として、アイマスクと車椅子体験の授業を行いました。アイマスク体験では、目が見えない暗闇や怖さ、車椅子体験では、低い段差でも危険なことなどを実感することができました。町でみかけたら声をかけて何かお手伝いをしてみたいと思うようになった児童が多かったです。



## 3 1年間の評価と課題

今年度も、児童会を中心にさまざまなボランティア活動を計画し実施することができました。予算をいただけたことで、点字の学習会や福祉講話を開くことができとてもありがたかったです。さらに、玄関には一年を通して綺麗な花がプランターに咲き誇り、児童の情操教育にも大変良い影響を与えていると感じました。この事業のお陰で、児童のボランティア活動が活発になりました。今後も児童の心が豊かに育まれるよう福祉教育を充実させていきたいと思ひます。

# 2

## 甲府市立中道南小学校

### 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップ収集（児童会）	11.20～12.8	歳末助け合い活動（児童会）
6.29	麦の家（障がい者福祉施設）訪問（6年生）	12.20	保育所訪問（1・2年生）
11.11	福祉講話	H30.1.26	新入児一日入学での交流（1・2年生）
11.28	中道デイサービスセンター訪問（5年生）	H30.2.15	保育所訪問（3年生）

### 2 取り組み事例

#### （1）麦の家訪問

6年生の総合的な学習では、「自分の夢に向かって」のテーマで学習に取り組んできました。具体的な取り組みとして、事前に麦の家の施設長さんに施設設立の経緯や施設で働く方々がどのように施設を利用している方に接しているのかなどのお話を聞き、施設訪問をしました。訪問では、施設見学を行い、バリアフリーされた室内やトイレの工夫などを見聞きし、「誰かに何かしてもらおうのではなく、入所している方に自分たちでできることを少しでもしてもらおうこと」で体の機能改善につながるなどを知ることができました。また、車いすをきれいにしながら、ふれ合うことをしたり、交流会をもったりしたことで、障がい者に対する気持ちも少し高めることができました。



#### （2）福祉講話

11月にロンドン世界パラ陸上走高跳び銅メダリスト 鈴木徹選手をお招きし、福祉講話を行いました。講話では、DVDの視聴から、これまでのご自身の過程を紹介して下さったり、実際に義足や銅メダルに触れさせてもらったりと、実体験から、自分の良さを生かし努力してきたこれまでの思いを優しくわかりやすく語りかけ、好きなことをやり続けることの大切さを伝えてくださいました。講話後の感想を見ると、困難を乗り越え、がんばる鈴木選手の姿から自分も目標としていることをがんばろうと改めて感じるなど、多くの学びをすることができました。



### 3 1年間の評価と課題

福祉講話・校区内の各施設での学習や児童会の取り組みなどの多くの機会を通して、「思い遣る心」の育成を行ってきました。その中で、「何かをしてあげること」が「思い遣る心」ではなく、相手の気持ちや意思をよく考え、行動することが大切なことであるということに少しずつではありますが、感じるようになりました。また、障がいという困難をバネにして、より人生に前向きに取り組んでいる鈴木選手の姿から努力の大切さを改めて感じるようになりました。このような取り組みを継続して、「思い遣る心」の育成を図っていくことが課題であると感じています。

# 3

## 甲府市立中道北小学校

### 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
H29.6.6	校内花いっぱい運動（美化委員会）	11.10	赤い羽根共同募金の取り組み （ボランティア委員会）
9.11	エコキャップ収集（ボランティア委員会）	12.11	校内花いっぱい運動（美化委員会）
9.22	愛のタオルの取り組み（ボランティア委員会）	H30.1.15	古切手・書き損じハガキの取り組み（児童会）
10.30	福祉講話（高学年）	通年	牛乳パック収集（給食委員会）
10.31	福祉講話（低学年）		

### 2 取り組み事例

高学年の集会では、聴覚障がい者と手話通訳者の方をお招きし、体育館で集会を行いました。手話の意味や日常生活の様子について学び、聞こえないことに対する理解を深め、自分にできることを考える機会となりました。低学年の集会では、視覚障がい者をお招きし、盲導犬と共に暮らす生活の様子を低学年にもわかりやすいように話していただきました。最後に盲導犬とも触れ合う時間を設定しました。



校内の環境整備として、美化委員会が玄関前にプランターを用意し、パンジーやビオラの花を植えました。目につきやすい場所であったため、多くの児童が足を止めてきれいな花に見入っていました。委員会の児童もやりがいを持って活動していました。



### 3 1年間の評価と課題

今年、福祉講話を行ったことで子どもたちは、あらためて自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人ひとりそれぞれの人の考え方、生き方を尊重し、ともに生きる大切さを学ぶことができました。今後も、未来を担う子どもたちが心豊かなぬくもりのある社会を創り出す一人として、福祉についての理解を深め、人を大切にする心を育ていけるような実践をしていきたいです。

# 4

## 甲府市立北新小学校

### 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 ボランティア活動 (古切手、書き損じハガキ、ペットボトルキャップ、バルマーク、タオル類、石けんの収集、募金活動) 花づくり (老人クラブの方たちとのふれあい花づくり) (保育所への花植え) (地域への花配り) (尚古園訪問・花植え：年2回)	8.23	P T A 奉仕作業
		10.26	福祉プラザ見学 (4年生)
		11.21	福祉講話 (4年生)
		11.22	福祉講話 (4年生)
		12.1	福祉プラザ見学 (4年生)
		12.18	障がい者スポーツ体験 (4年生)
		1.12	障がい者スポーツ体験 (4年生)

### 2 取り組み事例

本校では、学校教育目標の中に「思いやる心を持つ子ども」を掲げ、特別活動や総合的な学習の時間、学校行事などで福祉教育に取り組んでいます。特に地域の方々や老人クラブの方々との交流活動は伝統となり、積極的に取り組んでいます。

#### (1) ふれあい花づくり

児童と老人クラブの方々で、一緒に土づくりをしたり、花植えの作業などを行い、交流を深めました。また、育てた花は、南塔岩安全安心パトロール隊や老人クラブの方々、児童が持ち帰り、地域の公民館や自宅などに植えました。その他、福祉プラザや交番、児童館、郵便局や学校周辺の施設などを訪問し、花を贈り、地域の美化に努めました。



#### (2) 福祉講話や福祉プラザ見学

4年生は、総合的な学習の時間に福祉の学習に取り組みました。その学習の一環として、視覚障がい者の中村さんをお招きし、福祉講話を行いました。講話では、盲導犬との生活や家での過ごし方、出かけたときの出来事、生活の中で工夫していることなどを話していただきました。その中で、「目が見えないことは不便だけれど、不幸ではない。毎日新しい発見があって楽しい。」という言葉が、子どもたちの心に深く残りました。

その他にも、障がい者スポーツについての講話と体験や、福祉プラザでは、聴覚障がい者情報センターや介護実習普及センターでの見学や体験をさせていただきました。その中で、高齢者疑似体験では、普段元気に見える高齢者の大変さを実感することができました。



### 3 1年間の評価と課題

視覚障がい者の方や聴覚障がい者の方との交流や福祉プラザの見学、体験などを通して、子どもたちは、福祉ということについて様々な角度から考えることができました。また、ふれあい花づくりでは、地域の方との交流や自分たちで育てた花が地域で咲く様子を見て、達成感を味わうことができたと感じています。今後も体験的な活動を通して、子どもたちのこころを揺さぶる工夫を教育活動の中に取り入れていきたいです。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	朝のあいさつ運動（児童会） 花壇の花植えかえ（栽培委員会、各学年） 給食の牛乳パックリサイクル ペットボトルキャップ収集 青少年加盟登録式 ボランティア（はぐろっこ）の方の読み聞かせと パネルシアターの活動 保幼小交流会（1年生） 落ち葉清掃（全校・環境美化委員会）	8月	P T A 親子奉仕作業・クリーンアクション
		9月	お年寄りへの手紙作成（4年生）
		9月	昔の道具などの話を聞く（3年生）
		10月	奥湯村園（老人施設）訪問（4年生）
		12月	赤い羽根共同募金
		H30.1月	書き損じハガキ・古切手・テレホンカード収集

## 2 取り組み事例

## (1) 奥湯村園訪問（高齢者介護施設）（4年生）

10月24日、4年生が奥湯村園（高齢者介護施設）を訪問し交流してきました。地域にあり、名前は知っていても建物の中を見学することがなかったので理解を深めるのに大切な訪問になりました。施設には居住している方やデイサービスを利用している方がいることを知り驚いていました。4年生は、総合の時間を使って高齢者疑似体験をして体の動きや見え方の違いなどを学習しました。今回の交流も児童がどのように交流すると有意義な時間が過ごせるか考えて、すごろく、折り紙、福笑い、とんとん相撲等考えました。高齢者の皆さんにも喜んでもらいました。リコーダーの演奏を聞いてもらい、「もみじ」を一緒に歌い和やかな雰囲気の中でふれあいの時間をもつことができました。素直な気持ちで直接ふれあうことを通し、思いやりの気持ちをもつことができました。後日、お礼の手紙を届けさらに交流を深めました。



## (2) 学校をきれいに・花壇の花（全校）

学年ごとに、春と秋に花壇の花を植え替えて学校をきれいにしようがんばっています。学校の昇降口や南館の前は、栽培委員会がやってくれます。花を植え替える前には、地域のボランティアの方に土作りをしてもらっています。また、畑の土作りや2年生のサツマイモ植えなどにも力を貸してもらっています。全校児童にとって学校をきれいにしようという同じ目的で、地域の方と触れ合うよい機会となり、互いにつながりあって協力しあっていく心がもってきています。



## (3) あいさつ運動（全校）

年間を通して、児童会を中心に「あいさつ運動」や「ペットボトルキャップ収集」など行ってきました。毎朝登校してくる全校児童に向かって、ハイタッチしながら大きな声であいさつすることで気持ちよく一日がスタートできます。児童会だけでなく、各クラスの当番もあり全校であいさつの輪が広がっています。「相手の目を見て大きな声で自分から」の合言葉のもとがんばりました。



## 3 1年間の評価と課題

今年度も児童会が中心となってさまざまな取り組みが積極的に行われてきました。通年の活動は、全校の取り組みとして定着しているため、児童も意欲的に活動しています。また、毎年、4年生が高齢者疑似体験や視覚障がい者体験をして、施設訪問等しています。このような活動は児童にとって有意義なものとなっています。

今後も継続的に活動していき、児童の心が豊かに育まれるようにしていきたいと思います。

# 6

## 甲府市立舞鶴小学校

### 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 ペットボトルキャップ、古切手、牛乳パックリサイクル収集 ゴミゼロ運動(毎週木曜日の始業前) 飼育栽培委員会によるプランターの花の植えかえ(花いっぱい活動)	6.5	親子クリーンアクション
		7.10	4・5・6年生福祉講話
		8月	P T A奉仕作業
		11.24	1・2・3年生福祉講話
		11月	赤い羽根共同募金運動
		1月	書き損じハガキの収集

### 2 取り組み事例

#### (1) 児童会活動

児童会役員や各学年ごと担当を決めて登校時に進んで元気な挨拶ができるようにあいさつ運動に取り組みました。またボランティア委員会を中心に毎週木曜日のゴミゼロ運動をしたり、ペットボトルキャップや古切手・牛乳パックのリサイクル収集活動や募金活動などに年間を通して取り組んだりして福祉やボランティアなどの意識の向上をめざし実践しました。

#### (2) 福祉講話

7月には高学年生、11月には低学年生を対象に福祉講話を行いました。高学年では視覚障がい者を講師にお招きし、お話を聴いたりお箏の演奏を聴かせていただいたりしました。また低学年では聴覚障がい者と手話通訳の方におこしいたき、日常生活でのさまざまな工夫についてお話をお聴きしました。これらの取り組みを通して福祉についての理解を深めていくことができました。



今日は福祉講話に来て下さってありがとうございました。手話や空書き、指文字のほかにジェスチャーや口の動きなどいろいろな方法があることを知ってびっくりしました。

総合の学習で今まとめているので参考にしたいです。また舞鶴小に来て手話などを教えて下さい。今日は本当にありがとうございました。

～児童のお礼の手紙より～



### 3 1年間の評価と課題

今年度も児童会を中心にさまざまなボランティア活動を計画し実施することができました。通年の活動は児童会や学年の取り組みとして定着してきているため、児童も意欲的に取り組むことができています。福祉講話では今年度も講師の方の貴重なお話をお聴きすることができ、素晴らしい経験をすることができました。日常生活の中の大変さを乗り越える力強さや前向きに生きるたくましさを目の当たりにし、生きる力や勇気を感じることができとても充実した時間となりました。これからも児童の豊かな心の育成をめざし継続して取り組んでいきたいと考えています。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	あいさつ運動 給食の牛乳パックリサイクル ボランティアの方による朝の読み聞かせ	11月～	歳末たすけあい運動
6.28	2年生 福祉講話 盲導犬と視覚障がいを持つ方との交流	12月	赤い羽根共同募金協力 古切手・書き損じハガキ・未使用タオル収集
7.7	1年生 地域の方と歩道の花壇の花植え替え	11.14	4年生 福祉体験 視覚障がいを持つ方と点字体験
7.13	6年生 福祉講話 盲導犬と視覚障がいを持つ方との交流	12.21	5年生 地域の食生活改善推進委員会の方々と ほうとうづくり
11.10	1年生 地域の方と歩道の花壇の花植え替え	H30.1.26	5年生 命の学習
		2.1	3年生 地域の高齢者の方々と昔の遊び

## 2 取り組み事例

## (1) 福祉講話・福祉体験 (2年生・4年生・6年生)

2年生と6年生は、地域にあるライトハウスから講師を迎え、地域の方と一緒に毎年福祉講話を聴いています。講師の方には盲導犬と一緒に来校していただき、実生活の話をしていただいたり盲導犬と実際に触れあったりしながら、日常生活の様子や自分たちにできるサポートの仕方について学習しました。「自分たちにできることをすることで、いろいろな人と助け合っていきたい」という気持ちを育てることができました。4年生は、地域にあるライトハウスから視覚に障がいを持つ方を講師に迎え、地域の方と一緒に点字の学習会を開いています。

実際に点字ボードを使って自分の名前やあいさつ文を打ったり、指を使って読んだりすることで、点字の難しさと便利さの両方を学習することができました。

## (2) 地域の方と歩道の花壇の花の植え替え活動 (1年生)

毎年、地域の方と協力して、通学路の歩道の花壇の花の植え替えを行っています。手取り足取りで教えていただきながら街の美化を通して、自分たちの町への愛情と地域の方々との交流を深めています。

## (3) 命の学習 (5年生)

5年生は、理科や保健の学習で「人の誕生」について学習します。助産師の方を講師に迎え、おなかの中の成長の様子を教えていただきながら、命の誕生の奇跡を学ぶことができました。赤ちゃんと同じ重さの人形を抱き、その重さに驚き、命の尊さと家族への感謝の気持ちを深めることができました。

## (4) 地域の食生活改善推進委員会の方々とほうとうづくり (5年生)

地域の食生活改善推進委員会の方々を講師に迎え、山梨の食材を用いて郷土料理の「ほうとう」づくりを通して、郷土に愛着を持ち大切に作る心を育てると共に、地域の方々との交流を深めることができました。

## (5) 地域の高齢者の方々と昔の遊び集会 (3年生)

3年生は、社会で昔の生活について学習しました。地域の高齢者の方々41名を迎え、昔の遊びを通して昔の生活を知り、地域の方々との交流を深めています。



## 3 1年間の評価と課題

年間を通して、児童会活動を中心に様々なボランティア活動を計画し、実行することができました。本校は地域の方との交流がとて盛んで、学年の学習に大変協力的に参加していただきます。そのことにより、多くの方々の力で育てていただいていることに感謝する気持ちや様々な方々と助け合う心が育てられています。来年度も福祉活動を継続し、児童の心が豊かに育まれるよう、福祉教育を充実させていきたいと思ひます。

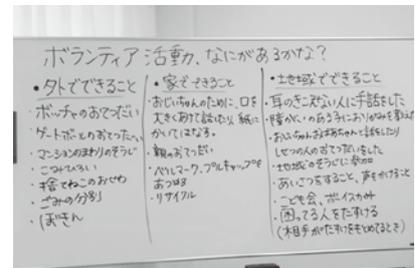
## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ちょボラ運動（ペットボトルキャップ、古切手、 テレフォンカード、牛乳パック、アルミ缶、ス チール缶収集）	1月	書き損じハガキ収集
年3回	福祉だより発行	8月	学校周辺愛校作業
		9～11月	盲学校生徒交流 （授業4回、学園祭、合唱祭）
		12月	赤い羽根共同募金・歳末助け合い募金活動

## 2 取り組み事例

本校では、ちょっとしたボランティアという意味の『ちょボラ』というボランティア活動が定着しています。年間を通して、ペットボトルキャップ・古切手・テレフォンカード・アルミ缶・スチール缶・牛乳パックの収集を行い、学期ごとに福祉だよりを発行し全校に報告しています。家庭で集めて持参するため家庭と連携する活動を行うことができます。

また、学校間交流として学区内にある盲学校の生徒と学園祭や合唱祭の行事でおもに交流を行いました。福祉委員会の生徒が学校内の展示スペースを説明しながら案内したり、給食を一緒に食べたり、音楽の授業では合唱をしたりと交流の時間を持つことができました。やさしさや思いやり、気遣いなどに気がつく貴重な時間となるため、継続していきたいと考えています。



## 3 1年間の評価と課題

年間を通して、さまざまなボランティア活動に積極的に参加する生徒が多くなりました。交流の輪を広げるため、福祉講話や福祉施設訪問の機会を設けることも大切だと感じています。社会に目を向け、学校内だけにとどまらず地域の中で自分にできることを進んで行える生徒を、福祉活動を通して育成できるようにしたいと考えます。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップの収集	12.14	富竹クリーンデーの実施
6.24	福祉講話の実施（1年生）	H30.2月	古切手・書き損じハガキ収集
11.14～	アフリカ飢餓救援米・募金収集		
12.5～	赤い羽根共同募金への協力		

## 2 取り組み事例

生徒会活動の取り組みとして「富竹クリーンデー」という学校・地域清掃を開催しました。3つのブロックに分かれ、全校生徒と教職員で清掃活動を行うことができました。この取り組みは、学年を超えた縦のつながりを意識して取り組める本校の伝統的な生徒会活動のひとつとなっているので、今後も継続していきたいです。

また、ペットボトルキャップ、古切手、書き損じハガキを中心に収集への協力を行いました。毎月開催される生徒評議会の中で呼びかけをし、取り組むことができました。回収されたものの合計は、生徒評議会や生徒総会を通して全校生徒へ伝え、報告することができました。ひとりひとり何ができるのかを考え、来年度もできることから実践していきたいと思ひます。



## 3 1年間の評価と課題

生徒会テーマ『超』のもと、重点項目に設定した「環境」を考える取り組みを行うことができました。自分たちの周りのことを考える取り組みがボランティア活動につながり良かったと思ひます。生徒主体のボランティア活動のさらなる充実とボランティア活動への参加の意識を高めるために今後も工夫して取り組んでいきたいと思ひます。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップ収集 花壇づくり手伝い	H29.11月	赤い羽根共同募金活動
H29.7月	デイサービスへ暑中見舞いカードを届ける	12月	歳末助け合い募金活動 街頭募金参加 デイサービスへクリスマスカードを届ける
		H30.1月	書き損じハガキ、古切手収集

## 2 取り組み事例

## (1) 地域との交流

今年度は、近くのデイサービスに、夏に暑中見舞いカード、冬にはクリスマスカードを届けました。一枚一枚手作りをしたカードを、一人一人に手渡すことができ、大変喜んでいただきました。なかなか、交流のない高齢者と触れ合うことがお互いにうれしい気持ちになりました。また、地域の方々が花壇の手入れをしてくださっています。その手伝いをしました。



## (2) 各種収集活動

生徒会の活動とタイアップして、ペットボトルキャップ収集を行っています。各クラスでワクチンと交換できる860個を目標に回収しました。どのクラスも積極的に持ち寄り、45Lの袋に約10袋分集まりました。また、募金活動にも取り組み、12月には、街頭募金活動にも参加することができました。



## 3 1年間の評価と課題

今年度は、福祉委員会と生徒会が協力をして、ペットボトルキャップの収集を行い活動が活発になりました。また、全校に呼びかけ、街頭募金にも大勢の生徒が参加し、良い経験をすることができました。今後は、ペットボトルキャップの活用方法や地域との交流の深め方について、さらに考えていきたいと思っています。また、一部だけの活動にならないよう心掛けていきたいと思っています。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
H29.4～7月	ペットボトルキャップ収集活動	10月	「赤い羽根共同募金」
6月	地域清掃活動	11月	「歳末助け合い募金」
8.20	親子清掃活動		「アフリカ飢餓救援米活動」
9～10月	「手足の不自由な子どもを育てる運動」	11～12月	地域清掃活動
			「NHK海外たすけあい募金」
		12～1月	古切手・書き損じハガキ・使用済みテレカ収集活動

## 2 取り組み事例

## (1) 親子清掃活動

毎年、夏休みの早朝に保護者に協力していただき行っています。今年度の活動でも、生徒たちだけではできない作業を手伝っていただくことで、感謝の気持ちをもつことができました。そのことにより、自分たちに出来ることは何であるのかを考え、それを行おうという気持ちをもつことができました。その気持ちが様々な活動に生かされています。

## (2) 地域清掃活動

この取り組みでは、河川敷など学校周辺を広範囲にわたりゴミ収集を行いました。用意したゴミ袋が一杯になるほど活動に没頭し、ゴミの分別を意識しながら、多くのゴミを収集しました。地域の方々にも声をかけられ、励みになったようです。この取り組みで地域のために奉仕することの意義を考えることができました。

## (3) 各種収集活動

例年行っている活動をさらに強化するために、ボランティア委員会で工夫し、集めたものの流れを学んだり、お便りの工夫、放送での呼びかけ等、啓発に努めました。結果として例年以上に集めることができ、障がいを持つ方や、世界のどこかで困っている人たちについての理解も深めることができました。



## 3 1年間の評価と課題

今年度も生徒会やボランティア委員会の取り組みにより、年間を通してボランティア活動を計画的に行うことができました。様々な収集活動では、ボランティア委員会で作成したお便りや掲示物、放送内容等を工夫することにより、例年以上に集めることができ、障がいを持つ方や世界中の困っている人たちに思いやりの気持ちをもつことができました。親子清掃活動や地域清掃活動においては、各家庭の協力も得て、生徒の間に毎年恒例行事として定着しています。活動中に地域の方々にも多くの声をかけていただき、生徒自身が自分たちにできることの幅を今以上に広げていきたいと思うようになってきました。非常に熱心に行うので、何回でも行いたいのですが、なかなか時間の確保ができないことが課題です。来年度も生徒たちがもつ「誰かのために何かをしたい！」という思いやりの心を大切にした取り組みを考え、地域のため、そして共に生活する方々のために、できることを精一杯行いたいと考えています。

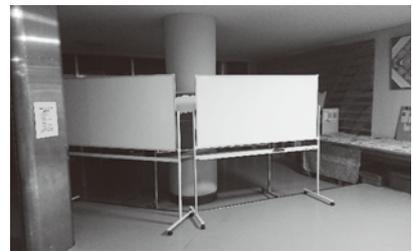
## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	ペットボトルキャップ・牛乳パック・古切手収集	11月	アフリカ飢餓救援米
4月	熊本地震義援金	12月	赤い羽根共同募金
7月	九州豪雨義援金		海外助け合い募金
8月	青少年赤十字リーダー養成トレーニングセンター	1月	書き損じハガキ・古切手収集

## 2 取り組み事例

本年度も J R C 委員会を中心に、1年を通じてペットボトルキャップ・牛乳パック・古切手の収集を行いました。また、災害時には生徒会本部と J R C 委員会が連携して募金活動を行い、多くの金額を集めることができました。8月には青少年赤十字リーダー養成トレーニングセンターに代表生徒が参加しました。

また、本年度はホワイトボードを購入しました。これを生徒玄関前に設置し、ここに委員会の活動を書き込んだり、ポスター等の資料を掲示することによってボランティア関連活動の普及・啓発を図りました。



## 3 1年間の評価と課題

1年を通じ、J R C 委員会を中心としてボランティア活動に取り組むことができました。しかし、生徒会本部との連携に関しては課題が残りました。H 3 0 年度に関しては、生徒会本部と委員会・他委員会などとも連携を図りながらより積極的な活動を行っていきたいと考えます。

## 1 主要行事

年月日	行事名	年月日	行事名
通年	学友会によるあいさつ運動	10.19	福祉体験学習（1年生）
5月～2月	古切手・テレカ・書き損じハガキ収集 ボランティア委員会によるアルミ缶・ペットボトルキャップ収集	11月	赤い羽根共同募金
		12.2	歳末助け合い・海外助け合い共同募金街頭募金活動参加
		12.4	地域清掃ボランティア（3年生）

## 2 取り組み事例

通年の活動であるアルミ缶・ペットボトルキャップ収集はボランティア委員会が毎月ポスターを教室に掲示して期日を知らせ、朝の登校時に持ってきてもらうよう呼び掛けています。収集時にクラスごとに収集量と協力者数を記録し、その日の昼の放送で発表することで次の収集への目標設定の目安としています。5～2月の8回で延べ862人が協力し、アルミ缶120.42kg、ペットボトルキャップ231.42kgが集まりました。ボランティア委員会だけで約115個のポリオワクチンになることを知らせました。

1年生の福祉体験学習は白杖体験・高齢者疑似体験・手話体験講座の3つのコースを一人が2つずつ体験しました。白杖体験ではアイマスクを付けた疑似体験者が介助者の肩に手を置いて誘導された場合と杖のみ（介助者の指示あり）の場合を体験し、それぞれの感想を話し合いました。高齢者疑似体験では装備を付けた生徒が靴の履き替えや段差の昇降、歩行などを体験し、高齢者の気持ちに寄り添う姿勢を養いました。手話体験講座では、実際に聴覚障がいのある講師と手話通訳者による講話の後、簡単な手話によるコミュニケーションを体験しました。どれも「もっと時間がほしい」と感じられる体験学習となりました。

3年生は学年で地域清掃ボランティアを計画し、落ち葉の時期に学校周辺の地域清掃を行いました。通い慣れた通学路を改めて見てみると、捨てられたごみがたくさん見つかり、落ち葉集めや草取りなどにも取り組んで、参加した有志はボランティア活動の意義や楽しさを感じた一時となりました。



## 3 1年間の評価と課題

ボランティア委員会の活動が定着していることは評価できると言えます。一方、「いつでもできる」という意識が「今回でなくても」という気持ちにつながり、いかにモチベーションを喚起するかということが課題でもあります。街頭募金活動や地域清掃に進んで参加した生徒の声を多くの生徒に伝え、体験学習等を契機に、協力する生徒の輪が今後も広がっていくことに期待します。

# 甲府市社会福祉協議会地域ぐるみボランティア活動推進事業 実施要領

## 第1 目的

少子・高齢化の進展や核家族化問題により、大人も子供もライフスタイルが多様化し、地域社会のつながりが希薄になっていると言われております。

これまで甲府市社会福祉協議会では、命の大切さや地域で共に安心して暮らし続けられる地域社会の再構築や、子供たちを始めとする地域における「福祉のこころ」を醸成するため、学校や地区社会福祉協議会を始めとする関係団体が連携して進める福祉教育の推進やまちづくりを支援することを目的として、山梨県社会福祉協議会指定による「福祉のこころ醸成事業」そして、本協議会独自による醸成事業を単年度で行ってきました。

今までの成果を踏まえ、継続的に福祉教育を推進する事業を地区社会福祉協議会と学校、その他関係団体・機関等が連携して行えるよう支援することを目的として、この要領を定める。

## 第2 実施主体

社会福祉法人 甲府市社会福祉協議会（以下「市社協」という。）とする。

## 第3 推進主体

市社協が指定した地区社会福祉協議会（以下「地区社協」という。）とする。

## 第4 事業内容

(1)指定期間 4月1日から翌年の3月31日まで

(2)指定地区社協数 1年度につき1地区社協

(3)実施内容

①福祉教育推進委員会の設置

指定された地区社協は、活動の母体となる福祉教育推進委員会を設置し、実施内容を検討・選択、活動の企画、準備、運営、今後の展開についての検討を行う。

○委員構成案 ア 学校 イ 教育委員会 ウ PTA エ 民生委員・児童委員  
オ 自治会 カ ボランティア団体 キ 企業 ク 学識経験者  
ケ 行政 コ 地区社協 サ 市社協

②学校との連携による「命の授業」の実施

③地域における福祉教育の取り組み

福祉教育推進委員会が中心となり、学校や地域の関係者と連携して地域における福祉教育の取り組みを図る。

## 第5 助成の申請

地区社協は、第1号様式及び第2号様式を市社協に提出しなければならない。

## 第6 助成金の交付

市社協が指定した地区社協へ助成金を交付する。

## 第7 助成金の経理等

助成金の交付を受けた地区社協は、助成金の経理等を次により処理しなければならない。

(1)助成金は、その用途を踏まえて活用すること。

(2)助成金は、地区社協予算に計上し収支費目を明確にして会計処理すること。

(3)助成金の収支に係る証憑書類（振込通知書、領収書等）を整備しておくこと。

## 第8 助成金額

該当年度の予算の範囲内とする。

## 第9 実績の報告

事業年度終了後20日以内に第3号様式及び第4号様式を市社協に提出する。

## 附 則

この要領は、平成24年4月10日から施行する。

# 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実績報告書

## 大里地区社会福祉協議会

### 1 福祉教育推進委員会

委員構成	役 職	氏 名
委員構成 30名	大里地区自治会連合会会長	興 石 修
	大里地区青少年育成推進協議会会長	大 原 博文
	大里地区子供クラブ指導者協議会会長	伊 藤 豊 次
	大里地区民生委員・児童委員委員長	鷹 野 正 文
	大里地区地域安全推進委員会委員長	河 西 邦 久
	大里地区社会福祉協議会会長	堀 宣 昭
	大里地区主任児童委員	兼 田 直 孝
	大里地区主任児童委員	竹 田 真理子
	大里小学校評議員	桜 林 稔
	大里小学校評議員	荒 井 二三恵
	大里小学校評議員	箭 本 一 雄
	甲府市少年補導委員代表	遠 藤 桂
	交通安全協会大里支部長	植 田 功
	大里地区文化協会会長	阿 部 誠
	大里地区保護司会代表	吉 岡 吉
	大里地区自治連合会女性部長	鈴 木 孝 子
	大里地区体育協会会長	伊 東 榮
	大里小学校PTA会長	奥 田 圭 子
	大里小学校PTA副会長代表	倉 知 俊 介
	大里小学校校長	大 森 繁 樹
	大里小学校教頭	佐 藤 正 人
	大里小学校教頭	長谷川 和 典
	大里小学校主幹教諭	横 森 朗
	甲府市ボランティアセンター所長	阪 本 俊 美
	甲府市ボランティアセンター主事	松 木 知 佳
	甲府市社会福祉協議会主事	清 水 建 斗
	大里地区社会福祉協議会会長	堀 宣 昭
	大里地区社会福祉協議会会長代行	塩 島 達 行
大里地区社会福祉協議会副会長	吉 岡 吉	
大里地区社会福祉協議会副会長	長 坂 勤	
開催期日	内 容	
H29.6.16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 大里悠遊館</li> <li>・年間行事計画の検討、決定</li> </ul>	
10.30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 大里悠遊館</li> <li>・上期事業実績の報告</li> <li>・上期事業実績の評価</li> <li>・下期事業の見直し</li> </ul>	
H30.2.23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会場 大里悠遊館</li> <li>・事業報告書の承認</li> <li>・収支決算書の承認</li> </ul>	

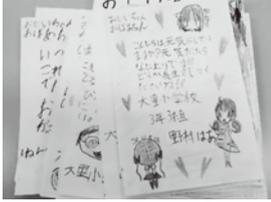
## 2 地域ぐるみボランティア活動推進事業 実施内容（生命の授業）

### ○ 学校との連携による「命の授業」について

期 日	会 場	内 容	
H29.4月～10月	大里小学校中庭 南校舎前庭 学校菜園	<p>○花を育てました。1年生対象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝顔を各自育て観察、成長記録の結果を廊下に掲示しました。</li> </ul> <p>○野菜を育てました。2年生対象。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナス、トマト、オクラ、枝豆、モロコシを育て観察、成長記録を取りました。オクラについては各自鉢に育てて夏休みには家に持ち帰り、実は家族でおいしくいただきました。成長記録は廊下に掲示しました。</li> <li>・大きなスイカ3個を収穫し、2学期のはじめ2年生全員で1口ずつ美味しくいただきました。</li> <li>・サツマイモを2年生全員で2人一組で一本5月中旬植え付けました。毎日水をやり観察、成長記録をとりました。10月下旬各クラスごとに芋ほりをしました。大量の収穫がありました。記録は廊下に掲示しました。</li> <li>・11月初旬収穫祭を各クラスごとに行いました。みんなたくさん美味しくいただきました。</li> <li>・野菜については、農家の人がボランティアとして見守り、指導をしてくれ、サツマイモの収穫時はお手伝いをしてくれました。</li> </ul>	 
H30.1.9	西下条町119-1 交差点	<p>○通学路危険個所の解消（交差点に横断歩道の設置）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この交差点は朝夕の交通量が激しく、児童の登下校に非常に危険でした。</li> <li>・今回この事業を契機に、地区社協はもとより学校、関係機関、自治会、関係団体が現地を2回視察しました。</li> <li>・公安委員会（警察署）に嘆願しました。</li> <li>・その結果、念願の歩道が設置されました。</li> <li>・児童が、安全にかつ安心して登下校が出来るようになりました。</li> </ul>	 
H30.3.1	大里小学校体育館	<p>○「命の授業」についての講話</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・甲府市健康衛生課から保健師2名が来校し児童を前に45分間お母さんのおなかから赤ちゃんが生まれた時から、出産するまでの過程を資料や赤ちゃんの模型を使いながら話をしました。</li> <li>・多数の保護者、市社協職員、大里地区社協役員も聴講しました。</li> <li>・学校、講師との交渉、連絡は大里地区社協、市社協が行いました。</li> </ul>	

### 3 関係者が連携しての事業

#### ○ 福祉教育の取り組み

期 日	会 場	内 容	
H29.9.3	大里小学校	<p>○敬老の日に贈る心温まる絵入りメッセージカード（835枚）の作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬老の日に例年大里地区社協が慶祝事業として記念品を地区の高齢者（70歳以上の方）に贈っていますが本年は学校当局に絵入りメッセージカードを児童全員に書いてもらえないかと相談したところ、快く引き受けて頂きました。</li> <li>・絵入りメッセージカードは835枚でした。</li> <li>・敬老の日に、各自治会の役員の方が記念品と一緒に高齢者にお届けしました。</li> <li>・うれしい反響が大きく、受け取った高齢者はもとより保護者、町民からも賞賛の声が挙がり、学校にも多くのお礼状が届きました。</li> </ul>	
H29.10.10	大里小学校体育館	<p>○高齢者疑似体験</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大里小学校福祉委員会（5、6年生24名）。</li> <li>・市社協から車椅子6台、高齢者体験用具セット借用。体験用具を、市社協職員、大里地区社協役員に手伝ってもらい装着、歩行、階段の上り下り、メガネをかけて本を読みました。</li> <li>・車椅子の操作、スロープの上り下りを体験。市社協職員、大里地区社協役員が補助しました。</li> </ul>	 
H29.11.24	大里小学校体育館	<p>○「出会い、ふれあい、学び愛」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障がい者の生活や思いを知りました。</li> <li>・5年生対象。</li> <li>・山梨県聴覚障害者協会から、聴覚障がいをもつ女性1名、手話通訳者女性1名が講師で来校しました。</li> <li>・体育館では、ステージを使用しないで、児童が座っている前で話をしたので身近に講師と接することができたので大変良かったです。</li> <li>・講師依頼等は大里地区社協がおこないました。</li> <li>・疑似体験用具（小、中生用）2セットを小学校に大里地区社協が贈りました。</li> </ul>	

○ 心豊かに

期 日	会 場	内 容
通年	各クラス教室	<p>○本の読み聞かせ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各クラスの全校児童対象。</li> <li>・毎週水曜日(学校行事がある場合は中止)。</li> <li>・朝8時20分から35分までの15分間各クラスに赴き本の読み聞かせを実施しました。</li> <li>・読み聞かせをする人は、保護者、ボランティア、合計22名(男性3名、女性19名)。</li> <li>・担当クラスは毎回変わりました。</li> <li>・朝のひと時をボランティアの読み声に集中して非常に良かったです。</li> <li>・読み聞かせを通じて児童との様々な交流が生まれお互いに楽しく過ごせました。</li> </ul>
1回目 H29.10.4~6	家庭科教室	<p>○生活を楽しくしようミシンを使って</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6年生対象。</li> <li>・授業時間1時間30分。</li> <li>・使用ミシン18台、各大机6台。</li> <li>・各机にミシン3台、児童5、6人、ボランティアが先生の助手としてたずさわりました。</li> <li>・エプロンを各自制作しました。5年生の時にミシンの基本は勉強していました。</li> <li>・ボランティアは、先生の指導補助にあたり、ミシンの調整、操作全般と糸がらみの処理など細かいところまで良く見て頂きました。</li> <li>・ボランティアは、1日6人、3日間で18人、2回で延べ36人でした。</li> <li>・ボランティアの皆さんは大里地区社協で募集をした、地域の経験豊かなお母さんがたです。</li> </ul>
2回目 10.11~13		
1回目 H29.10.24~27	家庭科教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生対象。</li> <li>・5年生はミシンの取り扱いは初めてでした。</li> <li>・指導体制は、6年生の時と異なり、各大机にボランティアと保護者の2名がつかまりました。</li> <li>・使用ミシンは18台、ボランティア、保護者の指導内容は6年生の時と同じでした。</li> <li>・製作品はナップザックで各自作りました。</li> <li>・ボランティアは1日5人、4日間で20人2回で延べ40人でした。</li> <li>・ボランティアの募集は6年生の時と同じです。5、6年生と両学年を見てくれたかたもいました。</li> </ul>
2回目 11.7~10		



期 日	会 場	内 容
1回目 H29.6.7~9 2回目 11.7~9	校門前	<p>○あいさつで気持ち良く過ごそう（あいさつ運動）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童対象。</li> <li>・左記の日は、大里小学校、城南中学校、山城小学校の3校で「あいさつ運動」強化の日と決めて実施しました。</li> <li>・朝8時から8時20分まで、校門の前で登り旗を立て、先生、保護者、ボランティアの人たち大勢が登校してきた児童をあいさつで迎えました。</li> <li>・11月2回目のあいさつ日には大里地区の各自治会の有線放送で「あいさつ運動」のことを放送して町民の協力をお願いしました。</li> <li>・各自治会への働きかけは、大里地区社協が行いました。</li> </ul>
H29.11.22	大里小学校 各教室	<p>○フェスタ大里 皆で元気に輝こう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童対象。</li> <li>・児童会本部が中心となり、児童会が主体で実施しました。</li> <li>・「エコなもので楽しもう」「なかよしニコニコ大作戦」が今回のテーマでした。</li> <li>・1年生から6年生まで縦割り班ごとに工夫を凝らし18チャレンジコーナーが用意されました。</li> <li>・保護者や地域の方々も大勢訪れ各コーナーを体験したり見学しました。</li> <li>・昼食は、持参した弁当を縦割り班ごとにたべ、学年の隔てなく皆で交流、親睦を深めました。</li> </ul>
H30.2.16	大里小学校体育館	<p>○二分の一成人式 将来に向けて輝け</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年生対象。</li> <li>・多くの保護者等が出席している前で、進行も児童が担当し成長している姿を披露しました。</li> <li>・全児童が一言ずつ、ここまで育ててくれた親、先生がたにお礼の気持ちを伝えました。</li> <li>・児童全員発表が終わってから、感謝の気持ちや、将来の夢を手紙にして各人のお母さんや、お父さんの所に走り寄り手紙を手渡した後しばらく、うれしそうに会話を楽しんでいました。</li> <li>・実に素晴らしい、心温まる光景でした。</li> <li>・地域の皆さんや、市社協、大里地区社協の皆さんも大変感銘を受けました。</li> </ul>



○ 地域とのふれあい

期 日	会 場	内 容	
1回目 H29.10.6	中条方面	<p>○仲良し町探検</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生対象。</li> <li>・各自メモ帳を持ち、ナップザックを背負いグループ（5、6人）ごとに目的の対象物に出かけて行きました。</li> <li>・児童の自主性を醸成するため、先生、保護者は、児童の行動等に口出しをしないで見守りました。</li> <li>・保護者は、事故防止のため各グループに付き添いました。</li> <li>・先生は自転車で各グループを巡回見回りしました。</li> <li>・中条「ガツタリ地蔵」では、きちんと整列し、説明者のボランティアの方たちに挨拶をしました。帰りも同様にしました。</li> <li>・説明者は、大里地区社協でお願いした地域のボランティアが、優しく、わかりやすく説明をしてくれました。</li> <li>・そのほかに町内の歯医者、クリーニング店、ヘアサロンなどを訪れました。</li> <li>・宮原「宇波刀神社」では門の前でボランティアが出迎え、門の入りかた、参道の歩き方、お参りの仕方などを勉強しました。</li> <li>・説明者は、大里地区社協がお願いした地域の方々でした。</li> <li>・そのほかに郵便局、トマトハウス、タクシー会社などを訪れました。</li> </ul>	
2回目 10.19	宮原方面		
H29.10.26	大里小学校体育館	<p>○昔の遊びを知ろう コマ、ケン玉、メンコ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生対象。</li> <li>・児童のお父さん、お母さん、地域の皆さんがた、大里地区社協、市社協の方々がお手伝いしました。</li> <li>・1年生86名を6グループに分け、コマ、ケン玉、メンコを各2セット設けました。児童は20分ずつ各コーナーを回る方式で実施しました。</li> <li>・地域の皆さん（ボランティア）が熱心に指導に当たってくれました。</li> <li>・大里地区社協から、学校にコマ40個贈りました。</li> </ul>	
H29.11.11	大里小学校	<p>○土曜学級の開催（授業参観）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童対象。</li> <li>・全学年地域への学校開放も兼ねての授業参観でした。</li> <li>・全校児童による避難訓練があり、その</li> </ul>	

期 日	会 場	内 容
H29.11.23	大里各地域	<p>後、消防団の指導による消火器の取り扱い、放水などがあり見学しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・その後、授業参観となりました。久しぶりに学校に足を運んだ高齢者の姿も散見されました。</li> <li>・P T A主催の講演会も開催され、多数の保護者や、地域の方が聴講されていました。</li> <li>・公開授業参観は、学校と地域の交流が児童を通じて図られたことに大きな意義がありました。</li> </ul> <p>○通学路、公園等の清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全校児童対象。</li> <li>・各町内の方々、子供クラブの関係者、保護者の皆さんと児童と一緒に、空き缶やペットボトルなどを拾い、通学路や、日頃遊ぶ公園をきれいにしようとのことでした。</li> <li>・大里地区社協でも各自治会に呼びかけ、協力を依頼しました。</li> <li>・当日は雨のため中止となりました。</li> </ul>
H30.2.2	大里小学校 音楽教室	<p>○変わる私たちの暮らし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生対象。</li> <li>・語り部 地域の男性ボランティア。</li> <li>・高齢者が子どもの頃の大里小学校周辺の様子や暮らしはどんなであったでしょうか。</li> <li>・昭和23年頃から30年頃までの10年間の様子を語りました。</li> <li>・内容としては、小学校の様子です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 勉強の内容      イ 校舎の様子</li> <li>ウ お弁当（給食）   エ 服装、履物</li> <li>オ 学校での遊び      カ その他いろいろ</li> </ul> </li> <li>・家に帰ってから。 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 家の手伝い      イ 遊び      ウ 宿題</li> </ul> </li> <li>・当時の村の様子。</li> <li>・昔から伝わる行事、祭り。</li> <li>・上記の内容をビデオを活用して話しました。</li> <li>・戦後の食糧、物のない時代の話であったので児童は驚いていました。</li> </ul>



## 4 1年間を振り返ってみて（成果及び課題等）

### 成 果

- (1) 基本になる重点事項（4本の柱）を決めて16の事業を、展開推進しました。  
その結果、各事業とも大きな成果を収めることができました。4本の柱は次の通りです。  
ア 命の授業 イ 福祉教育の取り組み ウ 心豊かに エ 地域とのふれあい
- (2) この事業に対して、地域の方々の理解と前向きな大きな協力が力となって、各事業とも成果を挙げる事ができました。  
以下、特に学校、地域の反響が大きかった事業を列記しました。
- (3) 通学路の危険交差点に横断歩道を設置する件については、この事業で取り上げ、大里地区社協が中心となって、学校、自治連合会、地元自治会、大里地区関係団体、児童見守りボランティアが団結して公安委員会（警察）に要望、横断歩道の設置を実現しました。地域のみんが一体となつての大きな成果です。
- (4) 敬老の日に向けて、大里小学校の児童全員が絵入りメッセージカード、835枚を作成しました。大里地区社協が毎年敬老の日贈る記念品（835人分）に添えて各自治会の役員が届けました。うれしい反響が大きく、町民、保護者から賞賛の声が挙がり、なおかつ、頂いた高齢者から、学校にたくさんの礼状が届きました。これこそ、福祉教育の児童側の実践ではないでしょうか。大きな成果であり、収穫でもありました。
- (5) 外部講師を招いての授業を2つ実施しました。視覚障がい者を迎えての講義では、聴覚障がい者の生活や思いを知り、力強く生きる姿を感じたと思います。さらに、命の誕生についての話を聞き、児童は、今ここに生きていることの大切さを学んだと思います。2つの外部講師の話は児童に大変感銘を与えました。
- (6) 5、6年生が対象のミシンの授業の補助者を大里地区社協が募ったところ、5年生6日間36人、6年生8日間40人、計14日間、延べ76人の地域の女性がボランティアでミシンの授業の先生の補助者として活躍をしました。地域の皆さんのご尽力と理解、協力があつたからこそ、この事業を展開、推進ができました。日頃の地域の皆さんの児童に対する思い、さらに地区社協に対する理解が大きい成果につながりました。
- (7) 「昔の遊びを知ろう」の授業でコマ、ケン玉、メンコを使つての授業をおこないましたが、保護者（お父さん、お母さん）の他に地域の高齢者（最高86歳男性）が多く見られ、児童に教えながら楽しんでいましたが、非常にほほえましい光景でした。地域の人たちが年齢に関係なく児童と一体となつての活動は、非常に素晴らしいことであり、大きな成果でした。
- (8) 高齢者疑似体験は、小学校福祉委員会の5、6年生の限られた児童でしたが、市社協から借用した、疑似体験セット、車椅子を使つての体験でした。児童全員が初めてのことでしたが、熱心に取り組みました。有意義な福祉教育の実技体験でした。

### 今後の課題

- (1) 単年度だけでなく今後も、大里地区社協、学校、地域の皆さん（ボランティア）が一体となつて継続して事業を展開、推進するかが大きな課題です（例ミシンの授業、昔の遊び、疑似体験、絵入りメッセージカードの作成、講師を招いての講演など）。
- (2) 今年度は予算が付いたが、来年度いくつかの事業を実施するとなると、予算の問題が生じてきます。
- (3) 大里地区社協が中心となつて事業を29年度は進めてきたが、継続していくつかの事業を推進するとなると、地区社協の内部体制の継続に対しての確立が求められます。

### 総 括

16事業を展開推進しましたが、どの事業をみても地区社協、自治会、学校、地域の皆さん（ボランティア）が一体となつて推進した結果が大きな成果を収めることになりました。今後の課題として大きな事項がのこりましたが、前向きに捉え、可能なものは進めてまいります。

# 甲府市ボランティアセンターの紹介

## 甲府市ボランティアセンターとは

甲府市ボランティアセンターは、「ともに生き、ともに支えあうまちづくり」を目指し、広く市民にボランティア活動の実際を周知するとともに活動の拠点として、ボランティア活動に関する広報・啓発と情報の収集・提供などの推進事業を掲げ、基盤整備の充実を目指して、ボランティア活動への参加のきっかけづくり、また参加者の技術や知識・得意分野などを地域で生かせる仕組みづくりのお手伝いをしています。

## 運営の仕組み

甲府市ボランティアセンターは平成6年4月1日に甲府市により設置され、甲府市社会福祉協議会によって運営されています。

## ボランティアについての相談・登録・紹介

「ボランティア活動をしたい人」、「ボランティアの協力を必要としている人」といった方々やグループ等からの相談を受け、コーディネートします。

## 活動の基盤づくりの援助

- ・ ボランティア・NPO団体への支援
- ・ 高齢者疑似体験学習の指導と機材の貸し出し
- ・ ボランティア活動機材の貸し出し  
(車いす・白い杖・アイマスク・紙芝居・積木セットなど)
- ・ 小・中・高校の福祉教育学習への協力
- ・ ボランティアグループの会議や活動の場としてボランティアビューローの開放
- ・ ボランティア活動中の万一の事故に備えて保険への加入窓口

## ボランティア活動の情報収集や情報の提供

- ・ボランティア情報紙「甲府市ボランティアニュース」の発行
- ・ボランティアボード及び新聞等でのボランティア情報の提供
- ・「ホームページ」や「まごころ（こうふ社協だより）」「フェイスブック」での情報の提供
- ・「甲府市ホームページ」や「広報こうふ」でのボランティア情報の提供

○ホームページアドレス：<http://www.kofu-syakyo.or.jp/>

甲府市社会福祉協議会のホームページよりアクセス願います。

○ボランティアセンターフェイスブック：<http://www.facebook.com/kofu.vc/>

## 育成・研修ボランティア講座の開催

- ・福祉への理解、知識を深めるための各種ボランティア講座の開設  
(講座を修了された方々がグループを作る際のお手伝いもします)

## 古切手・牛乳パック・ペットボトルキャップ・ 不要入れ歯等の収集の窓口

取りまとめてそれぞれの引き取り手にお渡しします。



# 甲府市ボランティアセンター事業の紹介

## 養成講座や研修会の開催



災害ボランティア学習会



ちよぼらキッズ養成講座



ボランティア学習会

## 災害 VC 運営訓練



## ふれあい交流フェスタ



## ボランティアウィーク



## 善意のカレンダー運動



## ボランティアの情報発信



お問い合わせは、  
甲府市ボランティアセンターまで  
お願いします。

TEL 055-223-1061  
FAX 055-231-6061

## 福祉講話講師の紹介

次の方を講師として紹介しています。

- ◇肢体不自由者(車いす使用)……歩行が困難な方の車いすでの生活実態
- ◇視覚障がい者(盲導犬同伴)……目が不自由な方の生活実態と盲導犬の役割
- ◇聴覚障がい者(手話)……耳が不自由な方の生活実態と、手話を用いての  
コミュニケーション方法
- ◇環境教育支援団体……環境について考える
- ◇災害・防災ボランティア団体…被災地での支援、現状、災害防災についての日頃の  
備えなどを学ぶ
- ◇ボランティア活動実践者……障がいのある女の子と妹、その母親とのユニット等  
(障がいを乗り越え、音楽を通してのボランティア活動)

☆講師の紹介については、甲府市ボランティアセンターへご連絡ください。

TEL 055-223-1061

FAX 055-231-6061



# 高齢者の体と心を体験してみよう！！

## (高齢者疑似体験セット)

### 目 的

#### 1 高齢者の心を思いやる

グッズを付ける事によって、手足が上げにくかったり、屈伸ができなくなったりします。また、耳が遠くなり、目も白内障のためかすみ、見えにくくなります。そうした身体機能の低下を体感する事を通して、高齢者の心理状態を忖度し、高齢者を理解するための「福祉のこころ」の醸成を図ります。

#### 2 介助者の役割を理解する

疑似体験セットを装着して体験してみると、介助される側、介助する側にも個人差があることに気が付きます。

このため、介助者は基本的には自立支援を目的とするので、体験者に必要以上に手を出さないことが大切であり、観察者は「体験者の様子はどうか」「介助の仕方は適切か」などをしっかりと観察し、体験後に助言すると共に体験時間の調整を図る必要があります。

このように、疑似体験では、高齢者や介助者の役割を通して、介助者がどのようにサポートするのが適切なのか、自分なりのノウハウを見つけるきっかけとします。

#### 3 バリアフリーの必要性を学ぶ

高齢者疑似体験セットは、自分が高齢者になったときの心身の状況を体験するものです。重りをつけた手足を無理やり動かしても意味がありません。「高齢者になった」という自己暗示をかけて臨むことが大切です。

普段は何気なく歩いている段差などを、実際に疑似体験セットを装着して体験することで、その危険性を認識し、高齢者が日常生活を営む上でのバリアフリーの必要性を学ぶきっかけとします。



▲高齢者疑似体験セット

◀高齢者疑似体験セット装着

**福祉ボランティア活動実践校事業及び  
地域ぐるみボランティア活動推進事業活動集  
(市社協指定実践校・指定地区社協)  
～平成 29 年度～**

平成 30 年 5 月発行  
社会福祉法人  
甲府市社会福祉協議会  
甲府市ボランティアセンター  
〒400-0858 山梨県甲府市相生 2-17-1  
TEL : 055-223-1061 FAX : 055-231-6061  
E-mail : k-vc@kofu-syakyo.or.jp

※この活動集は、赤い羽根共同募金分配金により作成しました。